



Since 1965 Creativity and Curiosity

福井高専

青武台だより

令和4年
3月18日発行

NO.227

独立行政法人国立高等専門学校機構 福井工業高等専門学校
National Institute of Technology(KOSEN),Fukui College



校塔とわに

さきくあれ

(校歌より)

CONTENTS

P2 ▶ 卒業生・修了生に贈る言葉

P4 ▶ 卒業生クラス紹介

P9 ▶ 修了生クラス紹介

P11 ▶ 学生の将来と進路

P13 ▶ 活躍する仲間

P19 ▶ 研修旅行

P21 ▶ 校外研修

P23 ▶ 文化体験日

P24 ▶ 退職にあたって

P26 ▶ 学校通信

Special Interview

～卒業生・修了生に贈る言葉～



自立

校長 田村 隆弘

コロナ禍を乗り越えて、本科の卒業並びに専攻科の修了、誠におめでとうございます。

特に留学生は、長期に渡るコロナ禍での留学生活お疲れ様でした。コロナが無ければ、もっと多くの旅行や体験が出来たことでしょう。しかし、人生はこれからです。コロナは今しばらく続くと思いますが、健康に気をつけながら、また新たな出会いを大切に、人生をエンジョイしてください。

今回のような疫病は、人類の歴史の中で繰り返し発生しています。したがって、厄災を乗り越えるためには、先人の経験や記録から学ぶことも大切です。

科学者は、まず過去の記録をリサーチし、現状を分析するための疫学的調査などを実施します。そして、最新技術を駆使してワクチンや治療薬の開発に取り組みます。皆さんも、卒業研究や特別研究などで、そうした問題解決の手法を学ばれたと思います。

一方で、文学者は執筆活動によって、厄災の記憶や教訓を留めようとします。

例えば、吉村昭は小説「破船」で、貧しい社会に訪れる疫病の悲惨さを表現しています。この作品では、貧しさは、厄災の訪れに気づく冷静さを失わせることを伝えています。

また、アルペール・カミュは「ペスト」という小説の中で、「厄災と戦うには、人々が自分の役割に集中し、誠実に務めるしかない。」と、非常事態下での個々の人間と社会のあり方を明示しています。

一人ひとりの健康と社会の関係については、我々も今回のコロナ禍で考えさせられました。人々の健康や安全を重視すると、経済が破綻します。経済を優先すれば、多くの人命が脅かされます。健康第一は一人ひとりが気をつけることですが、健康第一を理由に社会活動を厳格に規範すると、経済の破綻など別の不幸が発生する可能性があるということです。

全ての人は、夢を抱き幸せに生きる権利を持っています。

夢は、生きる力を生み出します。社会に迷惑をかけてしまうような夢を追ってはいけませんが、各々置かれた場所で夢を持ち、日々一歩ずつ夢に向かって誠実に生きることは、結果的に自分自身が輝くことや幸せに近づくことにつながります。宮崎駿監督の代表作「千と千尋の神隠し」では、「生きる力」がテーマになっていますが、その主題歌でも「いつも何度でも夢を描こう」と歌われています。

全ての教育は、そこで学ぶ人に自立する力をつけることを目的の一つとしています。本校のテーマも然りです。確かに皆さんは、自立するために様々な知識や技術を身につけられました。ぜひ、その力で夢に向かって自立してください。

しかし、「自立」という言葉が、あたかも自分一人で立っているかのように感じさせることについては、気をつける必要があります。この社会では、人を含めた全てのものは、お互いに、それも多くは目には見えない状態でつながっています。したがって、人はそうした他者を含めた全てのものとの「関係」を、上手くバランスをとることが出来て、はじめて自立できるのです。

日本の資本主義の父と呼ばれた渋沢栄一は、多くの夢を実現し、この国の発展に貢献した人です。彼は、母親から言われた「あなたが嬉しいだけではなく、みんなが幸せなのが一番です。」という言葉に胸に生き抜いたそうです。どうか、この「みんなが幸せなのが一番」ということを大切にして、人生の次のステージでも研鑽を積んでください。

Special Interview

～卒業生・修了生に贈る言葉～



教育後援会長 板村 勝正

やる気で未来を

本科卒業生、並びに専攻科修了生の皆様、おめでとうございます。教育後援会を代表して心よりお祝い申し上げます。

新型コロナウイルスによるパンデミックが発生して2年が経過しました。その状況下で学校やご家庭での感染予防などのご協力もあり無事学業を修める事が出来ました。改めて感謝申し上げます。

これからの道は就職や進学と一人ひとり違います。しかし、福井高专で学んだ高い技術者としての知識や経験は先の人生において必ず礎として役に立ちます。私は営業職に20年以上就いておりますが、皆様の学ばれた知識や経験を羨ましく思います。また、皆様には若さもあります。自分達の能力を信じ何事にも挑戦して下さい。与えられた仕事や課題を素直に受け入れ、好きになって下さい。好きになれば推進力となります。

「為せば成る。為さねば成らぬ何事も。成らぬは人の為さぬなりけり。」これは江戸時代の米沢藩主、上杉鷹山の言葉で、どんなことでも強い意志を持ってやれば、必ず結果がでる。つまり何事も「やる気」が大切という事です。やる気こそが困難な事に打ち勝つ力となります。

皆様のこれからの人生が輝かしいものとなり、ご活躍される事を心から祈念しております。



進和会会長 野嶋 祐記

小さな積み重ねが大きな成果に

卒業並びに修了を迎える本科及び専攻科の皆様、おめでとうございます。進和会を代表して心からお祝い申し上げます。

4月からは、それぞれが新たな職場や学校で気持ちも新たに更なる活躍を期待いたします。コロナと向き合い約2年が経過しました。この間、今までの働き方や生活の様式など大きく変わりました。将来コロナ禍を乗り越えても以前の働き方や日常生活には戻ることは難しいと考えます。これからの技術革新も、今までの視点ではなくアフターコロナを見据えることが必要です。これからは、広い視野で若い皆さんの柔軟な思考を駆使して、多くのものを視て聞いて更に創造してください。

今日は地元出身の物理学者を紹介させていただきます。竹内均(たけうちひとし)先生は福井県大野市生まれの地球物理学者です。東大卒業後同大学で、太陽や月の重力が地球への影響「地球潮汐」に取組み方程式を求めるなど世界的業績を20代で収めました。60歳で退職してから、科学を優しくわかりやすく世に広めることに尽力しました。科学雑誌「Newton」を創刊し編集長に就任し「中学生が読んでわかる科学雑誌」を目指したそうです。先生は地学の営みにたとえ「地球の営みはゆっくり進む。雨風が地表を侵食しても1年に1ミリ以下だけど、その積み重ねが大きな山をも削る訳です。そういう世界を学問のおかげで持つことができました。小さなことでも、何でも継続して努力すれば大きな成果を得ることもできる。」とふちの厚いメガネがトレードマークの先生が優しい笑顔で話されたことは今でも鮮烈に覚えています。

皆さん「自分の目標に向け小さな積み重ねを継続して夢を実現させてください!」

機械工学科

～卒業生クラス紹介～



機械工学科5年担任 亀山 建太郎

リスクテイクとDon't Panic

コロナのせいもあってか、ここ2、3年で、「リモートワークが普通になった」とか、「地球温暖化はホントのような気がしてきた」とか、色々な事が大きく変わった気がします。し、これからが本番のような気がします。

こういう変化に対して、「早く戻って欲しいねー」という人は多そうですが、どちらかという、「この変化を前向きに利用できまいか?」と考える人の方が、ストレス無く暮らせるのではないかと思います。

また、皆さんは、旧来の詰め込み教育ではなく、「変化に対応する力の育成」をうたった新しい課程を修了した改造人間なので、その能力を有していると思います。

ぜひ、自分の力を過信して、変化に富んだ困難な世の中で、積極的にリスクをとって楽しんで欲しいと思います。

そして、ちょっとやそつとで動揺しない、例えば、うっかり月が落ちてくることになってもパニックにならずに月見を楽しめるぐらい心の余裕を持って、何事にもあたってください。

卒業おめでとうございます。



機械工学科5年代表 昆沙賀 充

「後輩たちへ」

バラ色の高専ライフを夢見て入学した私たちを最初に襲ったのは「新歓」という名の後輩いじり、一発芸やものまねを先生・先輩方の前で強要される。私は伝家の宝刀「ポップ、ステップ、シャンプー」を全力で繰り出した…静まり返る場内、苦笑いの先生方。そしてであろうこと一発芸を強要した先輩は下を向いて携帯をいじっているではないか。心の底から殺意が沸いたことを今でも覚えている。

しかし今ではそんな先輩方にも感謝している。期限厳守の製図、睡眠を犠牲に完成させた実験レポート、鬼難易度の授業中の質問&いじり、この先に待ち受けている試練は最初のしごき「新歓」がなければ乗り越えられなかっただろう。

思い出すことはつらい思い出ばかり。でも5年生まで辿り着けたのは苦楽を共にした「仲間」、いつも支えてくれた「家族」、最後は手を差し伸べてくれる「先生」のおかげであることは間違いない。高専でのしごきもいつかは必ず芽を出して花を咲かすと信じている。

最後になりますが5年間を共に過ごした戦友達に、家族に、先生方に、これから地獄を見る後輩達に贈ります。「ポップ、ステップ、シャンプー!!」

電気電子工学科

～卒業生クラス紹介～



電気電子工学科5年担任 松浦 徹

贈る言葉

5Eの皆さん、ご卒業おめでとうございます。

私にとって初めてのクラス担任でした。至らない点も多々あったと思いますが、皆さんのクラスへの献身と協力により日々の学校での活動を円滑に進めていくことができました。ありがとうございました。特にこの一年は、進路を決めていく過程で皆さんが成長する様子を見るのが嬉しく思います。さて、福井出身の物理学者 南部陽一郎博士が提唱した「自発的対称性の破れ」という考えは、どんな向きでも取れる高い対称性を持つ真空が、特定の向きに決まった低い対称性の真空に自発的に変化することで、素粒子に質量が生じ現在の宇宙になったと説明します。高専入学時には何にでもなれる可能性があった皆さんが、自ら進む道を選択していくことで、それぞれ固有の人間になっていく、という過程に似ています。これからも何度か決断の時があると思いますが、対称性の破れが複雑で多様な生命を生んだ宇宙を創ったように、それぞれの選択の積み重ねがきっと皆さんの人生を面白いものにしてくれますよ。



電気電子工学科5年代表 北山 歩希

『仲間』

どうもこんにちは! 5E代表の北山歩希です。みんな、卒業おめでとう!そしてありがとう。このクラスで過ごした時間は宝物です! 3年から5年にかけて長らく級長を任せてもらい、良かったです。色々な失敗をやってしまう自分を見守りながらついてきてくれて本当にありがとう! 体育祭応援団、研修旅行、球技大会、どれも楽しかったです。そして、しんどいレポートと、難しい授業にも耐えた自分たちは、大きく成長できたと感じています。4月からは、みんなの進む方向はバラバラです。それぞれの進路で、しんどい時が必ずあるでしょう。でも、このメンバーで過ごした時間を思い出せば、絶対悩みがちっぽけに思えるはずです。コロナ禍の困難に負けず、頑張っていこう。

最後に、教職員の皆様そして、後輩、友人、家族にありがとうと伝えたいです。いくつもの困難を乗り越えた、最高のメンバーです。胸張って卒業しよう。ありがとう。



電子情報工学科

～卒業生クラス紹介～



電子情報工学科5年担任 村田 知也

「卒業生に贈る言葉」

5年生の皆さん、卒業おめでとうございます。高専生活の5年間は長いようでいて、思い返してみれば、意外と短かった5年間だったのではないかと思います。卒業した後は、就職・進学など、環境が大きく変わることになる人もいます。その5年生に向けて先生から贈りたいことは「近くにいる人を大切にしてください」ということです。ご両親や友達に普段から感謝をしているでしょうか？その感謝をちゃんと言葉で伝えているでしょうか？近くにいる人だからといって蔑ろにしているのですか？実はその人はあなたを一番に心配していて、いつも思ってくれている人だと思います。その人の顔を思い浮かべてみてください。いつもそばにいてくれて心配してくれている人です。時には口うるさくて叱ってくれる人です。卒業式が終わったら、その思い浮かべた人に対して言葉で「5年間ありがとうございました」と言ってください。担任としての最後のお願いです。

また鯖江に帰ってきたときは、頑張っている様子を聞かせてください。卒業生全員の今後のさらなる活躍を期待しています。

電子情報工学科5年代表 山田 耕太郎

1825日の高専生活

1825日の高専生活が終わりを告げようとしている。数字にすると長く感じるが、体感ではすぐ5年経ってしまった。緊張しつつ新しい気持ちで入学したあの日から、私はどれくらい成長したのだろうか。

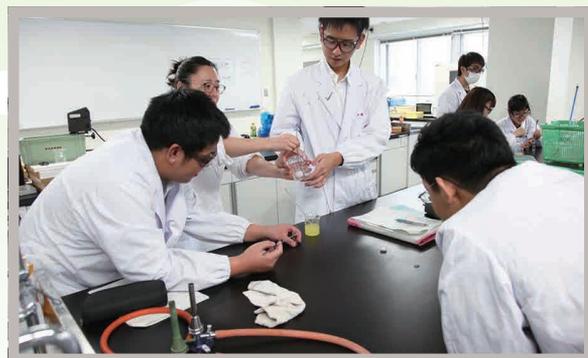
私はこの5年間で多くの経験をした。400字では到底書ききることは出来ないが、部活動で出場した全国高専大会や、学生会活動など、学校行事1つ1つが私を成長させてくれた。どれをとっても自分1人ではなく、周りの人の支えがあったからこそできたものである。本当に周りの人に恵まれた5年間だった。一緒に馬鹿なことをした同級生、学生会などで私についてきてくれた後輩達、本当にありがとう。感謝してもしきれない。

私はこの5年間で、人間関係という大切なものを改めて実感することができた。卒業してからは離れ離れになり、みんなに直接会うことはなくなるかもしれない。しかし5年間で築いた人間関係はなくなることはないだろう。福井高専、ありがとう。



物質工学科

～卒業生クラス紹介～



物質工学科5年担任 常光 幸美

Take it easy!

ご卒業おめでとうございます。平成二十九年桜花爛漫の陽春四月、夢希望に溢れて福井高専入学。そして、令和四年早春三月、いよいよ卒業、ふと気がつけば春光天地に満ちて夢のような周りの春景色でございましょう。

本校を卒業し社会へ巣立つ皆さん、前途洋々の人生の門出を迎えられ、希望に満ち溢れた四月からの新たな生活、くれぐれも健康には留意され、高専で得た知識を十分に生かされますよう。決して失敗を恐れず、その若さと持ち前の能力を遺憾なく最大限に発揮して、各々自分の考え方、自分の人生に誇り高く果敢にチャレンジしていただきたい。それは、無理に他人と張り合うのではなく、自分自身を信じ、ときには、もっと肩の力を抜いて、まさに“Take it easy!”でもいいのではないかと思います。ただ、“Easy come, easy go.”であるということだけは深く肝に銘じていただきたい。大切なことは、まさに“不断の自分磨き!”。プラスのエネルギーをいっぱい込めて大事な次のもう一步を踏み出すために。そして、将来、いつか真の自分のプライドと人生の生きがいを見いだせるように。これは、あらためて、誰にも負けまいと全身に力を込めて精一杯背伸びをしていた自分自身にも強く言い聞かせているのかも知れませんが。陰ながら皆さんの今後の奮闘と活躍を心からお祈りしております。社会を支える“グローバルイマジニア”としての活躍と“未来の後輩達へのメッセージ”に大きな期待を込めて。

物質工学科5年代表 千京 律斗

壮途

高専の入学からもう5年が経とうとしています。改めて考えると、まだ進路について臆気だった中学生が高専で5年間過ごす選択をするということは、とても勇気のいることだと思います。しかし、高専を選択した勇気ある精鋭たちと苦楽を共にして培ってきた経験は、どれもその勇気なしには手に入れることのできないかけがえのないものでした。また、様々な壁にぶつかることで己の無力さも、支えてくれる人の存在がどれだけ大切なのかも知ることができました。

春はあけぼのとはよく言ったものです。日が昇るにつれて白くなっていく山際も、紫がかっている雲のたなびきもそうですが、何より日本では新学期や入社式など、「出会いの季節」です。これからの社会、私たちには想像もつかないような困難が待ち受けているかもしれません。しかし、高専を選択して5年乗り越えたあなたたちなら、培ってきた経験が力に形を変えて、きっとどんな困難も打ち負かすことができると信じています。

…まあ、キツかったら逃げてもら手。専攻科で話聞きます。



環境都市工学科

～卒業生クラス紹介～



環境都市工学科5年担任 奥村 充司

はなむけ

「高専という覚悟」に惹かれKOSEN RACINGの門を叩いた馬むすめたち。千人近くのファームからこじんまりした牧場まで、一族の期待を背に、多様な属性を有する集団は無限の可能性に満ちている。これは生命進化研究の成果が教えてくれる。調教助手たちの厳しくも愛のある馴致訓練の後、担当厩務員が3年間世話をし、レースに向け卒研調教師のもと一人前になる。厩務員の仕事は多岐にわたる。日々の厩舎清掃もその一つだ。コロナ禍直前、のむら再生工場の旅と銘打った研修ツアー。「王や長嶋はヒマワリ。私は日本海の手元に咲く月見草だ」と自らを比喻した故人を偲ぶ。かぐやの調査は月に地球環境の変遷、生命進化創世記の仮説を立証する痕跡を見出した。さあ、福井高専史に卒業生として名が刻まれる多幸感を胸に、盟友たちとの日々が有意義であったことを検証する旅に出よう。どんなに暗くても、星は輝いている。

大歓声の中飛行機雲を描きながら輝かしい未来へとつき晋め。



環境都市工学科5年 佐治 颯香

飲水思源

私たちはコロナ禍や国際情勢が不安な中で卒業式を迎えました。入学当初は右も左もわからなかった私達ですが、多くの方々に支えられ、大きく成長しました。一般科目および本学科の先生方、技術職員の方々に始め、部活顧問の先生方、快適な学校生活、学寮生活を見守って頂いた主事団の先生方に御礼申し上げます。基礎科目、専門的な知識のみならず、自分の夢や目標を達成するための術(すべ)や自立・自律の心を身に付けることが出来ました。また学生課職員の皆様にはキャリア教育支援のみならず、進路を決定する際に暖かい応援を頂きました。4月からそれぞれの道を進んでいくことが出来ます。

飲水思源とは、これまでお世話になった方々への感謝の気持ちを忘れずに人生を歩むこと。私は春から本県で社会人として顧客のマイホームという夢の実現に向けて建築士を目指します。最後に研修旅行や体育祭、5年間共に勉学に勤しんだクラスメート、お世話になった諸先輩方や後輩へ。皆さんとの出会いを心から感謝しています。これからもよろしく!



生産システム工学専攻

～修了生クラス紹介～



生産システム工学専攻主任 金田 直人

7を超えた経験値

本科5年+専攻科2年=7年間の課程を終えられた専攻科生の皆さん、修了おめでとうございます。本科とは異なり、自由度が大幅に拡大した専攻科での2年間はどうかだったでしょうか。専攻科カリキュラムの特徴として、グループワーク、他分野の勉学、長期インターンシップ、特別研究等が挙げられますが、昨年度に引き続き、新型コロナウイルスに振り回され、本来やれたこと、やりたかったことができなかった学生も少なくないと思います。そのような中でも、専攻科生には本科生の模範となるような自律と自立が求められることもあり、時にはジレンマに陥ることもあったことなのでしょう。突然の休校、オンライン授業等、デジタル社会が一気に加速した新しい学校生活への適応を余儀なくされた苦難は、誰もが経験がなく、助け合いながら日々を過ごされたと推察します。

当たり前であった日常が戻ることはまだ先ようですが、5年後、10年後、どのような技術者になっていると想像しますか？また苦難に直面した時は、この専攻科での学びが少しでも活かされることがあれば幸いです。最後はやっぱり人ですね。



生産システム工学専攻2年代表 土村 貫太

7年の高専生活

私たちは本科5年、専攻科2年の計7年間を高専で過ごしました。本科では4年間同じクラスメイトと共に同じ先生方の授業を受けていたため、環境の変化はあまり感じませんでした。一方、専攻科ではあまり交流のなかった他学科の学生や先生方と関わる機会が増えました。特に1年次の前期は新型コロナウイルスの影響で遠隔授業になったこともあり、同じ学校にいらがどこか新鮮な気持ちになりました。

専攻科では異なる専門分野の学生たちと共にグループワークに臨む機会が非常に多いです。グループワークでは自分にしかできない役割を認識した上で、逆に自分にはできないことを他の学生にお願いするという形でお互いに助け合って作業することができました。周りがほとんど顔なじみである本科ではなかなか得られなかったコミュニケーション能力を身に付けることもできたと感じています。

様々な経験を得ることができ、とても充実した7年間でした。今まで指導していただいた先生方、本当にありがとうございました。



環境システム工学専攻

～修了生クラス紹介～



環境システム工学専攻主任 後反 克典

変化のあとに

専攻科修了生の皆さん、修了おめでとうございます。

皆さんが専攻科に入学した年は、入学式もなく、慣れないオンライン授業からスタートしましたね。インターンシップも思うようにいかず、もどかしい思いをしたのではないのでしょうか。これほど短期間で状況が一変してしまうことに不安や戸惑いを感じたと思います。

「世の中の変化に対応できる人材を…」と、よく耳にしますが、奇しくも皆さんは社会に旅立つ前の若い段階で大きな変化を経験しました。厄災を経験した人は我慢強いですが、加えて若い皆さんには更に柔軟性という武器があります。変化を受け入れるだけでなく、プラスに変えていける力をもっているのだと思います。

複雑化する世の中ですが、過小・過大評価せず、着実に自分が進むべき道を見つけて歩んでください。状況が良くないときは一呼吸して、慌てずに最善を尽くしましょう。誰かに相談するのもよいでしょう。健康に留意され、活躍されることを祈っております。



環境システム工学専攻2年代表 定兼 拓永

「私の高専JOURNEY」

7年間の高専生活はまさに長旅(JOURNEY)でした。しかし、数々の思い出たちは昨日のこのように脳裏に焼き付いています。特に専攻科で過ごした2年間は、特別であり一瞬でした。

新型コロナウイルスが日本で猛威を振り出したころ、私たちは専攻科に入学しました。そして、当時は聞き慣れなかった「リモート授業」に突入しました。そんな中でのグループワークは貴重な体験でした。他専攻の学生と意見を交換し合う機会が多く、違った観点から物事を考えることができました。また、今まで習得してきた知識を分かりやすく他人に伝えるための能力を身に付けることができました。リモートのため、対面よりもさらに伝わりやすくする必要があり、苦戦したことを覚えています。

私たちはいよいよ新たな旅に出発します。高専で学んだ良いことも悪いことも無駄にせず、人生の糧にしていきたいと思います。最後になりましたが、今までご指導いただきました先生、家族、友人の皆さん本当にありがとうございました。



～学生の将来と進路～

令和3年度 進路内定状況報告

キャリア支援室長 井之上 和代

本年度の本校の就職希望者の割合は56%(昨年度より減)、その内県内希望者は38%(昨年度より増)でした。本校への求人数は延べ5355社(昨年度より増)、全体の求人に占める県内企業の割合が11%となり、昨年度とほぼ同じでした。県外企業求人数、全体の求人数もほぼ同じでした。

就職活動スケジュールは前年度と同じ広報活動の解禁が3月、採用活動の解禁が6月で、コロナ禍ではありますが、オンラインを活用した活動が普及し、令和元年度までと同様に進みました。他方、進学状況については、本科の進学希望者は専攻科進学36名、大学編入学が45名でした。専攻科から大学への進学希望者は10名で、いずれも昨年度よりも増加しました。専攻科・大学・大学院入学試験の合格者のうち推薦は77%でした。各試験は、コロナ禍でも感染予防対策を取りながら実施され、昨年度

のような大幅な入試日程の変更はありませんでした。

来年度は、引き続きコロナ禍による経済の落ち込みが心配され、希望する企業の求人がない場合や減少となる場合もあり得ますが、卒業予定学生数に対しては十分な求人数になると思われますので、自己の目標に対して幅広い視野を持って臨んでください。新型コロナウイルス感染拡大防止の対策としてのオンラインによる企業説明会、面接などが普及し、スタンダードになりつつありますが、一方で対面によって実施される場合の、重要度が増しています。それぞれの場面に適した対応ができるように準備をしてください。

最後に本校のキャリア教育にご理解とご尽力いただいている関係教職員及び保護者の皆様に、厚く御礼申し上げます。



令和3年度 進路内定状況

令和4年2月25日現在

学科	区分	卒業・修了 予定者数	進 学 希望者数	内 定 者 数			未 定 者 数	就 職 希 望 者 数	内 定 者 数		未 定 者 数	そ の 他
				大学・大学院	専 攻 科	そ の 他 進 学			県 内	県 外		
本 科	機 械 工 学 科	33 (2)	14 (0)	8	6	0	0	19 (2)	6 (1)	13 (1)	0	0
	電 気 電 子 工 学 科	36 (2)	13 (2)	7 (2)	6	0	0	22 (0)	9	13	0	1
	電 子 情 報 工 学 科	35 (3)	19 (1)	12	7 (1)	0	0	15 (2)	4	11 (2)	0	1
	物 質 工 学 科	35 (15)	17 (8)	6 (4)	11 (4)	0	0	18 (7)	12 (5)	6 (2)	0	0
	環 境 都 市 工 学 科	40 (16)	18 (5)	12 (2)	6 (3)	0	0	22 (11)	5 (3)	16 (8)	1	0
	小 計	179 (38)	81 (16)	45 (8)	36 (8)	0	0	96 (22)	36 (9)	59 (13)	1	2
専 攻 科	生 産 シ ス テ ム 工 学 専 攻	16 (1)	4 (0)	4			0	12 (1)	4	8 (1)	0	0
	環 境 シ ス テ ム 工 学 専 攻	14 (5)	6 (2)	6 (2)			0	8 (3)	4 (2)	4 (1)	0	0
	小 計	30 (6)	10 (2)	10 (2)			0	20 (4)	8 (2)	12 (2)	0	0
合 計	209 (44)	91 (18)	55 (10)	36 (8)	0	0	116 (26)	44 (11)	71 (15)	1	2	

※表中の()は女子数で内数

～学生の将来と進路～

令和3年度 大学編入学試験・高専専攻科入学試験合格状況

令和4年2月25日現在

大学等	学部等	機械工学科		電気電子工学科		電子情報工学科		物資工学科		環境都市工学科		合計				
		推薦学力		推薦学力		推薦学力		推薦学力		推薦学力		推薦学力		推薦学力		
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
室蘭工業大学	理工学部		1												1	
筑波大学	情報学群						1								1	
千葉大学	工学部	1								1				2		
東京工業大学	環境・社会理工学院										1				1	
長岡技術科学大学	工学部	2					1			2	3			4	4	
金沢大学	理工学域	1													1	
福井大学	工学部	1				4	2	1	3	1				6	3	
信州大学	工学部				1										1	
豊橋技術科学大学	工学部	2		3	1	3		1		3	1			12	2	
京都工芸繊維大学	工芸科学部					1									1	
琉球大学	工学部				1										1	
福井工業大学	工学部				1								1		1	
福井高専専攻科	生産システム工学専攻	6		5	1	5	1	1						16	1	
	環境システム工学専攻								7	4	1	1	2	2	8	
計		13	1	8	2	3	13	1	5	9	7	1	7	2	6	3

令和3年度 大学院入学試験合格状況

令和4年2月25日現在

大学院	専攻	生産システム工学専攻		環境システム工学専攻		合計			
		推薦学力		推薦学力		推薦学力		推薦学力	
		男	女	男	女	男	女	男	女
筑波大学大学院	システム情報工学研究群	1						1	
金沢大学大学院	自然科学研究科	1		1		2			
福井大学大学院	工学研究科	1		2	1	3	1		
長岡技術科学大学大学院	工学研究科			1		1			
北陸先端科学技術大学院大学	先端科学技術研究科	1				1			
奈良先端科学技術大学院大学	先端科学技術研究科				1			1	
計		4		4	2	8	2		

合格!!
おめでとう!!



社会
CLEAR!!

国語
CLEAR!!



英語
CLEAR!!

理科
CLEAR!!

数学
CLEAR!!

Special Interview

～活躍する仲間～

環境都市工学科2年 佐々木 俊亮 F4 谷口 柊弥

全国高専体育大会(水泳競技)に参加して

私は、全国高専体育大会水泳競技に参加して、100メートル平泳ぎにおいて2位になりました。昨年は、コロナ禍ということもあり、今年が初出場になりました。このコロナ禍の中で大会が開催できたのは、沢山の人の支えがあったからだと思います。今回の結果は順位にしてもタイムにしても納得いく結果にはなりませんでしたが、得たものはありました。それは、自分の泳ぎについて今一度分析や改善する時間が増え、より一層良くなったことです。来年こそは、自身の目標である大会新記録が出せるように、精一杯努力しようと思います。(佐々木)

私が全国高専大会で優勝するために頑張ったことは、練習と筋力トレーニングです。特に練習は、月・火・木・土(2回)の週5回の2時間で毎週頑張ってきました。つらい練習もたくさんありましたが、なんとか耐えてきました。だからこそ1位をとれた時は、努力が報われた瞬間だと思いました。泳ぎ終わったあと隣の人から、「おめでとうございます」と言われ、とても嬉しい気持ちになりました。

自分が1位をとれたのは、練習を頑張っただけでなく親やコーチの応援や手助けがあったからこそだと思うので、本当に感謝したいと思います。(谷口)



機械工学科5年 大坂 昂太郎

「全国高専大会(ハンドボール競技)に参加して(3位入賞)」

私たちハンドボール部は、12月22日～23日に盛岡で開催された全国高専ハンドボール大会で三位という結果を納めることができました。

かねてより、全国高専大会への出場は私たちの目標でしたが、前々回は北陸地区大会であと一步のところまで勝てず、前回はコロナ禍で大会が中止になってしまいました。しかし、今大会は、コロナウイルス蔓延に伴い開催が危ぶまれたものの初出場を飾ることができました。

私たちは、日々の勉学・進路活動などの隙間時間を見つけては、体育館に集まり優勝を目標に練習に励みました。また、北陸電力の安藤コーチのお力添えもあり、確実に力をつけ大会に臨むことができました。大会では、予選リーグこそ危なげなく勝ち進みましたが、準決勝で前回大会優勝校である徳山高専を前に敗れました。

全国優勝という目標こそ叶いませんでしたが、初めての全国という舞台を川村先生、選手、マネージャーの全員で楽しめた気がします。優勝という忘れ物を取りに来年度の全国大会に戻ってくることを目標に、今後も日々鍛錬していきます。

最後に、ハンドボール部の全国高専大会参加に伴い多大なるご協力を賜りました安藤コーチ、川村先生、学校関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。



物質工学科2年 笠松 青夏

「全国高専体育大会に参加して」

私にとって、バドミントン高専大会に出場するのは初めてでした。全国大会前はコロナの影響やテストにより、思うように練習時間が確保できなかったため、試合では楽しさよりも緊張や不安の方が大きかったです。しかし、団体戦では一人ではなくチーム戦だったため、チームのメンバーがそばで応援してくれ、みんなでプレーしている感覚でした。そのため、試合を楽しむことができ、落ち着いたプレーができました。

一方個人戦では団体戦とは違い、自分自身との戦いで大変苦しい試合になりました。練習不足で体力や筋力が予選の北陸大会の時より劣っており、試合数を重ねるにつれ、思うように普段の自分の実力を全て出し切れませんでした。

今回の結果は、団体戦も個人戦も悔しい結果でしたが、チームらしく、点数差が開いても勝つことを諦めない姿勢で試合ができたと思います。私たちの強みは追い込まれた状況でも、冷静に、一点一点勝ちつて試合ができることです。それを発揮できたことは、良かったと思います。今の私の目標は、自分自身で試行錯誤しながらバドミントンの技術をさらに上げ、プレーを楽しむことです。来年も、チームのみんなで予選を突破し、全国大会に出場するために勉強と部活の両立を頑張りたいです。



Special Interview

～活躍する仲間～

生産システム工学専攻1年 竹内 睦

第18回全国高等専門学校デザイン
コンペティションAMデザイン部門に参加して

私たちは、2021年12月4日に開催された第18回全国高等専門学校デザインコンペティションAMデザイン部門において、審査員特別賞を拝受致しました。この部門は『『ついでに発電・ついでに動作』が可能で、日常生活の中で気付かず捨てられているエネルギーを利用した『生活が楽しくなる機器』の開発』がテーマとして掲げられていました。私たちはこれに沿って、『光って充電ためるくん』と題した、靴の中敷に内蔵した圧電素子を用いて発電した電力をモバイルバッテリーに蓄えられるものを作製しました。災害大国とも呼ばれる日本において、いつ起こるかわからない災害に備えるものであるとともに、災害に備えることの大切さを少しでも身近に感じられることを目指して、3Dプリンタで試行錯誤を繰り返しました。実際に電子機器を製作する機会に携わる中で、特にスケジューリングの難しさや理論値と実測値の違いを痛感させられた一方で、私たちは広い視野と高い洞察力を身につけられました。技術者として大きく飛躍するきっかけになった本大会の参加にあたり、サポートしてくださった先生方や苦楽を共にした森川君、田中君を含め、関わった全ての方に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



電子情報工学科2年 治内 杏太

第32回全国高校
アマチュア無線コンテストに参加して

第32回高校コンテストは、私がアマチュア無線研究会に入部して初めて参加したコンテストでした。今回、このコンテストで経験豊富な3年生を主軸として、私と1年生1名によるチーム(マルチオペレーター)で7MHz部門に参加しました。

コンテスト当日は電波伝搬のコンディションがよく、たくさんの無線局とスムーズに交信でき、交信数を大きくのばすことができました。私にとっては初めての経験でとても緊張し、時々、相手方無線局の応答を上手く聞き取れませんでした。一緒に受信していた先輩達はその都度助けてくれました。その甲斐あって、マイクを使って交信する「電話」では昨年の約2倍、モールス信号で交信する「電信」では昨年より10局も多く交信することができました。私自身が力不足であることを強く感じる機会でもありましたが、それでも普段の練習

やコンテストに備えた練習を定期的に行ってきたことが功を奏し、結果として部門優勝し、4連覇を達成しました。

現3年生の先輩方は、来年の高校コンテストには参加することができなくなるため、今後は私達1、2年生が部活動を牽引していくこととなります。コンテストだけでなく普段の活動でも先輩方のように上手く立ち回ることができるようにするためにはどう動けばよいのかを模索しつつ、これから入ってくる新入部員に対して先輩方や指導教員・コーチの先生方から教えていただいた知識と今までの活動で培った経験を教えられるよう日々の活動で精進していきたいです。



電子情報工学科4年 開発 大

「プロコンに参加して」

私たちは全国高専プログラミングコンテストに参加しました。身内からの保育関係の仕事の現状を知り、保育士の仕事をサポートする「お地蔵様といっしょ」というシステムを開発しました。このシステムを開発するためには多くの困難がありました。開発期間が短かったため、放課後は夜遅くまで開発を行い、夏休み期間中も毎日学校に来ていました。また、システム開発の経験が無いため、一から学びながら開発を行いました。そのため、思い通りに開発が進まず開発は難航しました。そのたびに、チームメンバーと協力し合い、問題を解決していきました。その結果、企業賞と自由部門特別賞をいただくことが出来ました。プロコンに参加して得られたことは情報共有の大切さです。情報を共有することで、開発の段取りの整理にもつながり、作業効率を向上させることが出来ました。

今年プロコンに出場する3年生の皆さん!システム開発はとても大変で挫折することもあると思います。しかし、ここで得られた経験は今後、社会に出る上で、とても大きなものになるはず。皆さんが良い結果を残せることを願っています。皆さん優勝目指して頑張ってください!!



～活躍する仲間～

令和3年度 優秀学生賞受賞者一覧

日本機械学会 島山賞

大学・短大・高専の機械系学科卒業生で
人格、学業ともに優秀な学生を表彰



機械工学科5年 長谷川 篤哉

公益社団法人
計測自動制御学会SICE優秀学生賞

大学・短大・高専の機械系学科卒業生で
人格、学業ともに優秀な学生を表彰



機械工学科5年 酒井 達也

公益社団法人
計測自動制御学会北陸支部優秀学生賞

同学会の主催・共催する発表会で
実績のある優秀な学生を表彰



機械工学科5年 中川 太陽

電気学会北陸支部優秀学生賞

電気学会主催の大会に参加し、
各大学高専から成績優秀な学生を表彰



電気電子工学科5年 菅原 真実由

公益社団法人
日本電気技術者協会北陸支部優良卒業生

高専及び高校の電気科課程の優良卒業生
(就職内定者対象)を表彰



電気電子工学科5年 黒川 航汰

一般社団法人
映像情報メディア学会北陸支部優秀学生賞

年次大会・冬季大会で発表された講演から
学生発表を対象に優秀な発表を行った学生を表彰



電気電子工学科5年 井伊 瑞姫

電子情報通信学会北陸支部優秀学生賞

電子情報通信関係大学・高専で、学業と研究業績が優れた学生を表彰
2021年安全・安心な生活とICT研究会研究奨励賞
10月の研究会での優れた発表として表彰



電子情報工学科5年 石川 晴基

情報処理学会北陸支部優秀学生賞

情報処理関係の大学及び高専等において、学業成績が
優秀であり、かつ将来の活躍が期待される学生を表彰



電子情報工学科5年 清水 陸

公益社団法人
日本化学会近畿支部支部長賞

近畿、北陸地区高専の化学系課程の
優良卒業生を表彰(各校2名を上限)



物質工学科5年 千京 律斗

公益社団法人
日本化学会近畿支部支部長賞

近畿、北陸地区高専の化学系課程の
優良卒業生を表彰(各校2名を上限)



物質工学科5年 室田 彩乃

日本分析化学会中部支部優秀高専学生賞

中部地区高専の分析化学系課程の
優良卒業生を表彰(各校2名を上限)



物質工学科5年 中村 颯汰

全国高専土木工学会近藤賞

全国高専土木系学科卒業生で、
人格、学業ともに優れた学生を表彰



環境都市工学科5年 下野 輝生

土木学会教育企画・人材育成委員会
高等専門教育小委員会土木教育賞

全国の高専、短大、専門学校土木系学生のうち勉学に精励し、
優秀な成績を修めた者で、他の模範となる者等を表彰



環境都市工学科5年 角屋 亘紀



Special Interview

～活躍する仲間～

令和3年度 キャンパスプロジェクト採択一覧

学年	学科	代表学生	テーマ	連絡教員
5	電子情報工学科	鈴木 智也	校歌普及委員会	川上 由紀
3	電気電子工学科	市村 音羽	キャンパス内アライグマ等 野生動物の生態観察システムの製作	東 章弘
3	電子情報工学科	谷口 和也	MRを用いたアクションゲーム	小松 貴大
3	電子情報工学科	並河 壮真	ブラインド自動化計画	小松 貴大
3	機械工学科	花谷 ひかり	自動黒板消しロボットの製作	千徳 英介
4	環境都市工学科	岡上 陽	マグナイトを用いた防草対策	野々村 善民

令和4年度 福井高専キャンパスプロジェクト概要報告

電子情報工学科5年 鈴木 智也

校歌を題材にした音ゲーの構想から実現まで

私たち校歌普及委員会では校歌を題材にしたアーケード型音楽ゲーム(音ゲー)を制作しました。筐体・回路・ソフトウェアの制作をすべて自分たちで行い、構想してから4年をかけて今年ようやく形になりました。

当初の構想は4ボタン式の音ゲーで2018年度の報告会で発表しました。しかし4ボタンではゲーム性に限界があり、より高度なゲームを好む学生に遊んでもらうのは厳しいのではないかと考えられました。そのため、筐体を1から作り直しタッチパネル方式に切り替えて開発を行いました。タッチパネル回路がうまく動作せず未完成のまま2019年の報告会で発表しました。今年度はこの問題を解決できたため、ようやく報告会で完成したものを発表することができました。

実際に遊んでもらった学生からは「校歌が頭から離れなくなった」という声も聞こえ、それなりの効果があるのではないかと考えています。今後は後輩に制作物を託し、イベント等で多くの人に遊んでもらうことで校歌の普及に役立てられるのではないかと期待しています。

最後になりますが、3度にもわたってこのプロジェクトを採択していただいた校長先生と関係者の皆様には感謝いたします。本当にありがとうございました。

電気電子工学科3年 市村 音羽

キャンパス内アライグマ等野生動物の生態観察システムの製作

今年度、同じクラスの南茂礼香さんとともに、キャンパス内にいる野生動物の生態を観察するためのシステムを製作するという企画をキャンパスプロジェクトに応募し、採択していただきました。我が校では、度々、アライグマなどの野生動物が目撃されていることを皆さんはご存知でしょうか?福井高専は2つの川の間に位置し、生態系が豊かな環境であるといえます。そこで私たちは、マイコンと人感センサ等を用いて野生動物の観察システムを構築することで、キャンパス内の生態系を把握し、自然環境への理解を深めたいと考えました。

夏休みからシステムを製作しはじめ、プログラムなどの修正を重ねるなど試行錯誤を経て完成させ、夏休み後半から11月までの間、キャンパス内のあらゆる場所にシステムを設置して観察を行いました。テーマに掲げたアライグマの撮影はできませんでしたが、より高次の捕食者であるキツネがキャンパス内にいることがわかって驚きました。また、その他に2匹の猫、カラスの撮影にも成功したことから、野外での電力供給をはじめ、動体検知から動画伝送に至るまでのシステム全体が十分に機能したことがうかがえます。

今回のプロジェクトでは、動物の生態観察を通して自然環

Special Interview

～活躍する仲間～

境の理解を深めることができたことに加え、問題解決のための対応力や先を見越したスケジュール管理能力等を身につけることができました。この経験を通して学んだ多くのスキルは、エンジニアとして社会に出た際にもきっと役立つと思います。最後に、この企画は私たちの力だけではなく、たくさんの方々にご協力をいただいて成り立ったものです。この場をお借りして心から感謝申し上げます。

電子情報工学科3年 谷口 和也

「MRコンテンツ制作を目指して」

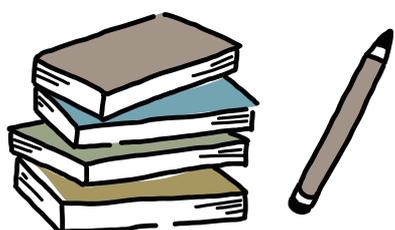
今回私たちは、MRを用いたアクションゲームの作成に挑戦しました。

MRとは、AR(拡張現実)とVR(仮想現実)を組み合わせた新しい技術であり、複合現実とも呼ばれています。

このプロジェクトは、「MRゲームの作成を行うことで自分たちの技術力を向上させる」、「高専祭などに展示することで様々な人に最新の技術を体験してもらいたい」ということを目的とし、夏休み明けから高専祭までの期間に作成を行いました。

作成をする際、アクションゲームとMRを完璧に組み合わせることが困難であることがわかり、最終的には、プレイをする人はVRゴーグルをつけ、その画面をスクリーンに映すことでプレイをしていない人も楽しめるという形に収まりました。作成したゲームに関しては、飛んでくるフルーツを剣で切り、切った数を競うという内容であり、ランキングに載ることや前の自分のスコアを超えることを目標に楽しむことができます。

結果として高専祭で展示することができ、50人以上の方にゲームをプレイしてもらうことができました。プレイしてくれた方の中には、VRなどの技術に触れるのは初めてという方もたくさんいたので、私たちの目的は達成できたと考えています。



電子情報工学科3年 吹矢 翔汰

ブラインド自動化計画

私たちは2021年度のキャンパスプロジェクトにブラインド自動化計画というテーマで参加させていただきました。今回行った内容は、教室にあるブラインドをマイコンやモーターの力を使い、遠隔でブラインドを開けられるようにしようというものでした。

今回このテーマでキャンパスプロジェクトに参加しようと思った理由として、3EIでは放課後などのときに教室のブラインドの開け忘れが多発しており、教室に学生課からの注意の紙がたまっていました。そこでブラインドをボタン一つで遠隔に操作することができればブラインドの開け忘れを防止できるのではないかと思い参加させていただきました。

今回のキャンパスプロジェクトでは、マイコン、モーターを購入し、ブラインドをモーターで引っ張るための部品を、3Dプリンターを用いて設計、作製しブラインドを操作する機構を作製しました。結果としてはマイコンを用いてモーターの遠隔操作はできたものの、モーターの力が足りず安定してブラインドを開けることはできませんでした。完成には至らなかったもののこのプロジェクトを通して使用するモーターの選り方やマイコンでの操作といった様々な経験を得ることができました。

最後に、私たちにこのような機会をくださり、協力していただいた皆様本当にありがとうございました。



Special Interview

～活躍する仲間～

機械工学科3年 花谷 ひかり

自動黒板消しロボットの製作

高専における黒板消し作業には、清掃に休み時間の多くの時間を使ってしまう、背が小さいと上部の清掃に苦勞するという問題がある。このプロジェクトでは、このような問題を解決する方法として、黒板消しを自動化するロボットの製作を企画した。

最初に、ロボットのコンセプトの決定を行った。コストと汎用性の面から家庭に普及しているロボット掃除機型の黒板消しロボットを目指すことにした。

次に、ロボットの試作を行った。ロボット本体は、市販のロボットキットを改造して使用し、強力な磁力のネオジム磁石で黒板へ張り付けることにした。磁石の数や黒板との距離を調整し、張り付いたまま走行できるようにした。このロボットに、タッチセンサと光センサで黒板の縁を認識して自動走行するプログラムを入力した。

最後に、黒板消しを取り付けて走行させる予定であったが、走行中の黒板消しと黒板の間の摩擦や重量の偏りによって車輪の空転や落下が起り、清掃しながらの走行には至らず残念だった。来年度またこのような機会をいただければ、完成品を作りたいと考えている。終わりに、本プロジェクトに対し多大なるご支援をいただき、ありがとうございました。

環境都市工学科4年 岡上 陽

マグナイトを用いた防草対策

私達のプロジェクトは、福井高専内の防草対策です。高専内には土の露出箇所が多くあり。夏季になると沢山の雑草が生えます。年に数回、高専全体で大掃除が実施されます。しかし、数日間経過すると雑草はすぐに生えてきます。そこで、私達は抜本的な除草対策を実施し、整然とした屋外空間を作ることを目的としました。除草対策の方法は土の露出箇所に市販のマグナイトで覆うことです。このマグナイトは真砂土に酸化マグネシウムなどの固化材を混ぜたものです。

除草対策の作業は雑草の除去とマグナイトの施工となります。マグナイトの土厚は転圧をかけて5cmとします。最後に水を撒くことで、マグナイトは固まります。

当初の計画では、土の露出作業とマグナイトの施工は11月に終了予定でした。しかし、マグナイトの発注が遅れ、次に積雪により施工困難な状況が続いています。

そのため、雪が溶けて気温が高くなった時点で、私達はマグナイトを施工します。完成が遅れた分、施工の品質は高まり、防草効果も長くなります。

最後に、私達の学生生活は残り1年間となりました。長期間の防草効果を見届けるために、私達のプロジェクトは後輩達に受け継いでもらいたいと考えています。



Special Interview

～研修旅行～

研修旅行について

機械工学科3年 原田 慎太郎

ENTERPRISE

機械工学科の研修先は「株式会社UACJ福井製造所」、「パナソニック株式会社インダストリー社デバイスソリューション事業部」、「株式会社松浦機械製作所」の三社でした。

UACJはアルミニウム板製品を主に製造している大企業です。私たちは巨大なアルミニウムのコイルを見学させていただきました。

パナソニック株式会社も大きな企業でしたが、UACJとは異なりやっと思えるくらい小さいチップ抵抗器を作っています。大きな製品も小さな製品も高品質のものを作り出すには多くの技術者が力を合わせる必要があると感じました。

松浦機械製作所は工作機械を開発・製造している企業です。世界中に拠点を構えて大手企業に輸出しているのが非常に驚きました。また、他にも高精度な金属3Dプリンタのような最新技術を手作業で製作されていて、その凄まじい技術力が印象に残りました。大企業のように大量生産を行うことはできませんが、世界中に認められる技術力は偉大だと思いました。

私はこれらの企業を訪問して沢山の貴重な情報を得ることができました。このような機会がまたあるととても嬉しいです。



電気電子工学科3年 山下 空馬

研修旅行

いつもは出発30分前に起きる朝を1時間半前に起きて慣れないネクタイを15分かけて締めた朝、学校に向かうというよりもよっと思える男子と普段とは違う美しく華やかな女子がいました。今までとは違うマスクをし、徹底した感染予防をしながらの例年とは違う1泊2日という短い研修旅行がスタートしました。

1社目の見学先である鯖江村田製作所さんは丁寧な会社説明や業務内容を聞きながら会社の見学をすると私たちが使っているスマートフォンやタブレットはムラタの製品がほとんど使われていることがわかりました。2社目の見学先であるパナソニックオートモーティブ社さんは主に車の部品の製作している会社で車のハンドルやカーナビなど目に見えるものもあれば、電子部品など車にかかわるものを数多く作っていました。

最後に行った日本電産テクノモータ株式会社さんはエアコンの空調に使うモーターやショベルカーなどに使う産業用のモーターなど様々な用途のモーターを製作していることを知りました。

今回は普段と違う研修旅行となりましたが、クラスの仲間達とさらに仲が深まったと思いました。



Special Interview

～研修旅行～

研修旅行について

電子情報工学科3年 和田 虎志郎

研修旅行に関して

僕達の研修旅行は新型コロナウイルスの影響で、一泊二日に短縮されました。通常の研修旅行よりも期間が短かったので予定がキツキツだったのを覚えています。研修先としては一日目にオーディオテクニカ様と永和システムマネジメント様、二日目にI-O DATA様と北陸先端科学技術大学院大学に研修に向かいました。研修の中で特に印象に残ったのは、北陸先端科学技術大学院大学の研究室で行なっている様々な研究です。北陸先端科学技術大学院大学は大学、高専だと専攻科を卒業した後に向かう大学院で、もともとどのような研究を行なっているのか気になっていました。自身の動きに影を作るプログラムや、卒業生の作成された某携帯キャリア会社で話題になった「羊の執事」などを拝見させて頂きました。特に物体にライトをあてて、その物体の形を測定する機器(3Dスキャナ)があったのですが、それを使って自分をスキャンしてもらったことが特に印象に残っています。数分でスキャンして頂いたのですがすごく自分に似ていたのです。このような研究はとても興味深いなと思いました。

ほかにも北陸先端科学技術大学院大学内で最大のスパコン「KAGAYAKI」を見学させて頂いたとき、学内の人であれば、いつでも無料でKAGAYAKIを使用できると聞いて驚きました。



物質工学科3年 新屋 慶都

研修旅行に行って

三年物質工学科は、初日に第一工業製薬(株)様より国内の自社工場について説明して頂きました。私は初め工場という「モノを作る場所」という漠然としたイメージでしたが、第一・二製造課、品質管理課、保全原動課など業務内容が細分化されていることを知り、製造業で活躍できる“幅”を実感しました。また原料仕込みでは機械化が進んでおり、製造業において男性だけでなく女性の参画も進められていると知りました。

二日目はレンゴー(株)様に段ボールの原材料調達から製紙原料として生まれ変わるまでを説明して頂きました。工場見学をしたときに傾斜のある立地を利用して原料を送るポンプを縮小していると知りました。他にも廃棄物をバイオマス燃料として再利用するなど持続ある資源の大切さを学びました。上記二つの会社で実際に働いている先輩方からは資格の重要性、勤務形態の実態をご教示頂き、仕事選びの参考になりました。企業見学以外にも、ガラス作り体験をしたり、芝政でレクリエーションをしながら海を眺めたりと楽しかったです。

私たちの研修旅行はコロナ禍で例年の形態とは異なりましたが、とても有意義な時間を過ごせて思い出となりました。



Special Interview

～研修旅行・校外研修～

● 研修旅行について ●

環境都市工学科3年 寺前 海斗

研修旅行について

今年の研修旅行は、新型コロナウイルスの影響で例年より短い一泊二日でした。しかし、この二日間は我々にとって中身の濃い充実した時間となりました。

はじめは、足羽川ダムの見学を行いました。足羽川ダムは、福井市街地を洪水から守るためにつくられています。当日は、建設中のダム本体の見学をしました。建設中の現場を見る機会は貴重です。我々は、興味津々に見学しました。また、現場はスケールが壮大で圧倒されました。

二日目は、北陸新幹線の高架橋と福井駅の建設現場を見学しました。北陸新幹線は二年後に敦賀まで延伸予定です。新幹線の延伸は街の賑わいや観光の活性化をもたらします。本事業は我々の将来の仕事や生活に密接に関わっています。我々は職員の方に積極的に質問し、将来についても深く考えることができました。

午後は、スキージャンプ勝山で各々が芝そりやマレットゴルフなどを楽しみました。全員が勝山の雄大な山々をバックに、時間いっぱいまで仲間と過ごしました。

この研修旅行の開催は多くの先生方、両親、事業所の方の努力の賜物です。我々は、多くの人への感謝を忘れずにこれからの高専生活を歩んでいきます。



● 校外研修について ●

機械工学科2年 下 晴人

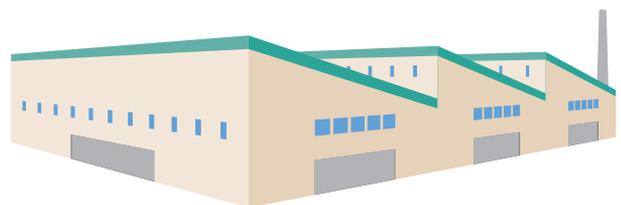
校外学習で学んだこと

僕は、校外研修で信越化学工業株式会社と岩崎工業株式会社に行きました。

最初に行った信越化学工業では、高専を卒業した先輩達からのアドバイスや信越化学工業での機械科の役割について教えてもらいました。自分は先輩達からの話を聞くまでは、信越化学での機械科の役割はあるのかと疑問に思っていました。しかし、話を聞いてみると半導体シリコンなどを作るための機械の設備の点検や機械を設置するための配置など様々な役割がありました。

次に行った岩崎工業では、除雪車のスノーブラウなどを作っています。そこでは、機械科で学んでいる専門的な技術などが多くありました。また、除雪車を運転できる人が減っているため、自動運転を可能にするための研究を行っているという話も聞きました。

これらから、僕はこれからの将来に必要なものは、自分の学んでいる知識はもちろんのこと、より専門的な知識を勉強して行く必要があります。例え、自分が行きたいと考えている所に専門外の分野があるのなら、それについての最低限の力を身につけないとついていくことが困難になってしまうかもしれません。そのためにも、先輩達のアドバイスにあったコミュニケーション能力などの周りの人たちと関わるための力もつけて勉強に励んで行きたいと考えています。



Special Interview

～校外研修～

校外研修について

環境都市工学科2年 大久保 泰誠

現場見学を終えて感じたこと

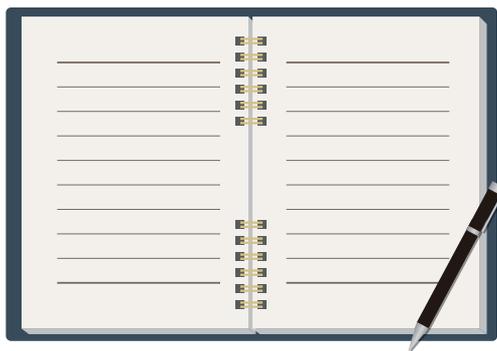
僕たちはまず、建設途中の芦原温泉駅に行きました。階段を登りホームに立った時に、その長さに圧倒されました。また、建設途中ということもありホームには柱や線路しか無かった為、全長約三百メートルの空っぽのホームはコンクリート建造物の美しさをかもし出していました。

次に北陸新幹線の高架橋を見学しました。橋の下に到着すると、寒空の下、作業員の方々が温かく迎えて下さりました。その後、橋で線路を見学しました。そして見学の最後に、

記念撮影で、作業員の方々とも撮影しました。現場で活躍する人達の心の温かさや、現場の雰囲気を感じることができ、とても貴重な体験となりました。

最後に、越前武生駅に見学に行きました。大自然の中にそびえ立つガラス張りの越前武生駅、僕は初めて自然と人工物の対比の美しさを感じました。また、ホームの窓から見える夕焼けの田園地帯の景色は、とても美しかったです。

今回の体験で印象に残ったことは、現場特有の雰囲気や、働く人達の温もりを感じることができたことです。今回の体験を踏まえて、将来自分も建築に携わる仕事に就けるよう、これからの高専生活で、勉学にさらに励んでいこうと思います。



令和3年度 第2学年校外研修先一覧

研修日	学 科	研 修 先	引 率 者
11月11日(木)	機 械 工 学 科	信越化学工業株式会社 武生工場	柳原 祐治 金田 直人
		岩崎工業株式会社	
	電 気 電 子 工 学 科	パナソニック株式会社インダストリアルソリューションズ社	青木 宏樹 西城 理志
	電 子 情 報 工 学 科	株式会社オーディオテクニカフクイ	佐藤 勇一 西 仁司
		株式会社永和システムマネジメント	
物 質 工 学 科	酒井化学工業株式会社	挽野 真一 山脇 夢彦	
	塩野フィネス株式会社		
環 境 都 市 工 学 科	独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構	岡本 拓夫 芹川由布子	

Special Interview

～文化体験日～

文化体験日について

F1 浅尾 空澄

文化体験日について

私たちF1は文化体験として東南アジアの伝統的なスポーツであるセパタクローを実施しました。セパタクローとは、体の手以外を使ったバレーです。あまりメジャーではないため、紹介動画を見るまではあまり活気がなかったように思います。しかし、プレーしている選手の動画を見るととてもかっこよくクラスが盛り上がりました。実際に試合を行ってみると意外に難しく、相手のコートにボールをうまく返すことができずでしたが、運動神経が低い者も高い者もチームを組むことによって力の差が分散され白熱した戦いになりました。このスポーツは主に足を使ってボールを取り扱うため、サッカー経験者にはとてもお勧めです。しかし、試合自体はとても楽しいもので、あっという間に時間が過ぎていきました。文化体験日の翌日、次の日、さらに次の日もセパタクローの楽しさの余韻が残り、クラスでは話題が尽きることはありませんでした。セパタクローをはじめマイナースポーツへの興味も大きくなり、今後も定期的にプレーしたいと思っています。それだけ私たちにとっては良い思い出となった一日でした。

F4 松浦 湧也

文化体験日に参加して

僕は、文化体験日で、福井市立郷土歴史博物館と養浩館に行きました。郷土歴史博物館、養浩館どちらも、福井の歴史を感じました。

僕は、寮生で、岐阜出身なので、福井のことは、とても新鮮で、興味深いものばかりでした。郷土歴史博物館では、縄文時代から昭和時代までの福井の歴史が、養浩館は、大きな池がある庭が、とても印象に残りました。

そして、文化体験日で最も良かったと思うことは、クラスの仲間たちと、より仲を深められたことです。クラス全体で学校以外の場所に行くことがあまりなく、とても特別な経験だったと思います。文化体験日であまりそれまで話していなかった人とも仲良くなり、今ではよく話す仲になりました。

文化体験日で得たものは、これからの学校生活で、いい経験となっていくといいなと思います。いい思い出ができて本当に良かったです。



Special Interview

～退職にあたって～



機械工学科 田中 嘉津彦

退職にあたって

高専卒業後、大学・大学院での学生生活そして民間企業を経て昭和60年4月に福井高専に着任して早や37年の歳月が経とうとしている。福井高専には学生としての5年間を含めると、都合42年の長きに亘ってお世話になった。この間、多くの方々と出会い、ご懇切丁寧なご指導とご鞭撻を頂戴したことに衷心より感謝申し上げたい。定年という節目を迎えられるのも偏に恩師を始めとする教職員、そして関わった学生の皆さんの自分に対する深いご理解とご支援によるところが大きい。

福井高専教員としての37年間においては担任や主事補等の他、工業力学、振動工学や機械設計製図等の専門教科を担当させていただいた。これらの思い出は尽きないが、学生諸君から技術者教育とは何かということを常に問い質されたように思う。残念ながら、現在でもこれらに対する明確な答えは未だ見出せていない。また、前述した校務以外においても何をどれほど成し、福井高専に恩返しできたのか甚だ疑問と反省ばかりであり、同僚諸氏のご批判とご評価に委ねたい。

最近、応用的・先端的または革新的な技術が目される風潮があるが、いつの時代もそしてどのような分野においてもその基礎や基盤は普遍的である。それらが確立され、本質を見極めることで明るい未来が拓かれるのであって、目先の事だけに囚われていると足元をすくわれることにも繋がりがねない。以上のことを拙い研究活動を通して実感し、教育指導にも自分なりに還元してきたつもりであるが、その効果についても定かではない。

“我が教員生活に悔いなし”と言いたいところではあるが、福井高専で過ごした歳月を振り返ってみると自信を持って語れるところが少なく、時間だけが無情にも過ぎ去ったように思う。

福井高専が今後も有為な人材を輩出し続け益々発展されることと、皆様のご活躍をお祈り申し上げるとともに、長きに亘ってお世話になりましたことに改めて厚く御礼申し上げます。



物質工学科 上島 晃智

感謝感謝

私が福井高専に教官として赴任したのは昭和も終わりかけの62年でした。その頃の高専は今より遙かにゆったりと時間が流れていたように思います。今思い返しますと、初めての寮務主事補で戸惑いながらも主事の先生や寮生と楽しい時間を持たせていただいたこと。教職員のテニスクラブが盛況で、お昼の時間が待ち遠しかったこと。バドミントンの顧問として学生達との関わり合いを持つ中で様々な経験をさせてもらったこと。初めての担任の時には、いろいろな巡り合わせもあり、ストレートの卒業生が30人を切ってしまう、先生方とその対応に苦慮したことなど、この頃は色々なことを教えていただき、自分なりに大きく成長できた時期だと思っています。拙い駆け出しの時期であり冷や汗もかきましたが今となっては楽しい思い出になっています。

そんな状況が少しずつ変わり始めたのは、専攻科設置の頃からでしょうか。世の中の流れに合わせるように、私たちの考え方や働き方も変わらざるを得なくなり、ゆとりが少しずつ削られていったように思います。そのような変革の中にありながらもこれまで務められて来られたのは、沢山の先輩や同僚の方の支えがあったからこそであり、苦しいことも沢山ありましたが、その時々周りの方々にお力添えを頂き今を迎えることができましたこと、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。最後に、世の中の変容のうねりは留まるところを知らず大きくなって行くでしょうが、福井高専がますます発展される事を祈念して退任のご挨拶とさせていただきます。



Special Interview

～退職にあたって～



物質工学科 津田 良弘

「退職にあたり」

平成元年4月からの勤務で、約30年間の自家用車での通勤を、平成31年1月から福鉄電車を使った電車通勤に変更したことで気づいたことを幾つか。

1. 正月2日、3日の箱根駅伝を生中継で見ている。その中で、最終10区のランナーが10位でタスキを受け取り、母校の名誉と来年のシード権獲得のプレッシャーの中、どのような気分なのかと思っていた。福鉄電車を降りて、高専方面に歩く途中、福鉄電車を後から降りてきた学生や、小林農園付近では全く見かけなかったJR鯖江駅からの学生に足音が良く聞こえる鯖江大橋で追い抜かれ、高専に着く頃にはかなりの差をつけられている。母校の名誉やプレッシャーとは無関係でも悔しい。年取ったなーと実感。
2. 令和2年度はガラガラだった通勤時間帯の福鉄電車が令和3年4月から急に込みだした。3密回避で、座席の使用率は6割程度。詰めて座るのもどうかと思い、二駅だからと立っていたら、高専の学生らしき男子学生に、「席どうぞ；座ってください」。いまだき席を譲ってくれる学生がいるのか。「晩秋の福鉄電車 席どうぞ 嬉しかったり 悲しかったり」。年取ったなーと実感。
3. 電車通勤を始めたころは、西鯖江駅から高専まで徒歩で約25分でも普通で、学生の歩くスピードが速いだけだと思っていた。ところが、福井高専の募集要項などに記載されている「利用交通 西鯖江駅 徒歩約20分」。委員会で「おかしいのでは、25分かかると言ったら「先生、歩くのが遅い」年取ったなーと実感。

定年の年といっても、人生100年時代。残りまだ40年もある。足を鍛えて何かしよう。



一般科目教室 岡本 拓夫

鯖江の“なまず”と高専

“なまず”の尻尾を追い求めて、40年近くが過ぎてしまいました。鯖江には院生時代から出入りし、京大北陸(地震)観測所にはよく来ていました(その頃は、駅の東側しか知りませんでした)。高専に赴任してから、駅の西側を知るようになりました。高専での思い出は、学級担任、課外活動、防災宿泊訓練、地球物理学研究会(通称、“なまず”、“岡本クラブ”とか言われてました)です。担任としては、来て直ぐ土木工学科、最後に環境都市工学科を持ち、何か因果を感じています。地球物理学研究会では、学生と一緒に鯖江の“なまず”の尻尾を追いかけていました。やはり、ライフワークとしては、鯖江の“なまず”の尻尾を捕まえることです。もう少し、頑張ってみます。

最後に、福井高専のますますの発展を祈念して、筆を止めようと思います。ありがとうございました(あと少し、お世話になります)。

By Namaz



～学校通信～

令和3年度 福井工業高等専門学校卓越した学生の表彰及び第2回学生表彰受賞者一覧

福井工業高等専門学校卓越した学生

電気電子工学科5年	菅原 真英由	電子情報工学科5年	清水 陸
-----------	--------	-----------	------

校長特別賞

第2回全国高等専門学校ディープラーニングコンテスト「最優秀賞」受賞

プログラミング研究会	電子情報工学科4年	小川 大翔	同時受賞 ・若手奨励賞・技術審査員賞・アイイング賞(企業賞)・KDDI賞(企業賞)
	電子情報工学科4年	前川 蒼	

校長賞

第56回北陸地区高専体育大会優勝(個人)

バドミントン部(女子シングルス)	物質工学科2年	笠松 青夏
水泳部(100m自由形、400mフリーリレー、400mメドレーリレー)	電気電子工学科1年(F4)	谷口 柊弥
水泳部(100m平泳ぎ、200m平泳ぎ、400mフリーリレー、400mメドレーリレー)	環境都市工学科2年	佐々木 俊亮
水泳部(400mフリーリレー、400mメドレーリレー)	機械工学科3年	岩田 純弥
	電気電子工学科5年	井上 優良

第56回北陸地区高等専門学校体育大会優勝(団体)

バドミントン部(女子)	ハンドボール部
-------------	---------

第54回全国高等専門学校サッカー選手権予選北信越大会優勝(団体)

サッカー部

第32回全国高等専門学校プログラミングコンテスト自由部門「特別賞」受賞

電子情報工学科4年	開発 大	電子情報工学科4年	北 洸太	企業賞 ・トヨタシステムズ企業賞
電子情報工学科4年	横山 大稀	電子情報工学科4年	飯島 大稀	
電子情報工学科4年	加藤 友恵			

第18回全国高等専門学校デザインコンペティションAMFデザイン部門「審査員特別賞」受賞

生産システム工学専攻1年	竹内 睦	生産システム工学専攻1年	森川 凱都	環境システム工学専攻1年	田中 太樹
--------------	------	--------------	-------	--------------	-------

奨励賞

1年間学業成績優秀者

物質工学科4年	MASHBAT MANDUKHAI
---------	-------------------

TOEICにおいて成績優秀者

生産システム工学専攻1年	蜂谷 将貴	電子情報工学科4年	吉田 創	環境都市工学科5年	下野 輝生
物質工学科5年	NOR ANISA BT. MOHD HASRI	環境都市工学科3年	窪田 多久見	電子情報工学科4年	森下 航聖
電気電子工学科4年	馬淵 涼平	電子情報工学科5年	鈴木 琢人	機械工学科3年	吉野 晃

第57回福井県高等学校等新人陸上競技大会(走高跳)優勝及び第26回北信越高等学校新人陸上競技大会(走高跳)第3位入賞

陸上部	機械工学科1年(F2)	笠原 彰紘
-----	-------------	-------

電子情報工学科4年 小川 大翔

「校長表彰を受賞して」

この度、「D-ON」という打音検査システムで校長表彰を受賞しました。D-ONを作るにあたって、沢山の方々にご助力いただきました。この場をお借りして、打音検査について教えて下さった辻野先生・阿部先生・校長先生・企業の方々、学校を休んでD-ONを仕上げることに理解を示して下さいました先生方、精神面でサポートしてくれた家族・友人・DCON大会運営の方々、そして最初から最後まで見守って下さった村田先生に、感謝を申し上げます。



～学校通信～

部・同好会の紹介

部活動として体育部が19、文化部が8、同好会が15あり、幅広い分野で活発な活動が行われています。



体育部 卓球

私たち卓球部は男子19人女子3人の合計22人で活動しています。学年や性別、個人の技術に関わらず、全員が部活動に励んでいます。また、高専大会では、団体戦全国出場を目標に、個人戦でもそれぞれの目標に向かい日々練習しています。

指導教員 大和 裕也、山本 幸男、青山 義弘



体育部 ハンドボール

ハンド部は、経験者も初心者も各自が目標を持ち、1人1人が自主性と責任感をもって魅力のあるチームを作っています。週4日で活動しており、全国高専大会優勝目指して練習しています。一緒に最高の思い出作りませんか？

指導教員 川村 敏之、芳賀 正和、柳原 祐治



体育部 ソフトボール

ソフトボール部は月、水、金の週3日活動しています。昨年は全国大会出場など結果を残す年となりました。未経験者から経験者まで学年問わず仲良く活動しているので、少しでも興味がある方の入部をお待ちしています。

指導教員 田安 正茂、門屋 飛央



文化部 放送・メディア研究会

毎週日曜に、ラジオ番組『高専ライブ』を放送しています。学生や先生方へのインタビューを中心に、楽しい一時間をお届けします。そのほか、学校行事の撮影をしたり、学外イベントの司会を受け持ちたりもしています。

指導教員 西 仁司、長水 壽寛、市村 葉子、後反 克典



同好会 ダンス

ダンス同好会は毎週木曜日に体育館の2階で活動しています。高専祭に向けて各々が友達や先輩後輩と自由にグループを組んで練習に励んでいます。ダンスに少しでも興味がある人は大歓迎です！ぜひ体験に来てみてください！

指導教員 宮本 友紀



同好会 音鍵研究会

DTMと呼ばれるPC上で音楽を作る活動をしています。楽器が弾けなくても、楽器がなくても曲を作ることができます。作曲歴の短い人でもQRコードのような曲が作れるようになります。みなさんも、曲と一緒に作りましょう。

指導教員 川上 由紀、後反 克典

その他の部・同好会一覧

体育部門

- ・陸上
- ・男子バスケットボール
- ・女子バスケットボール
- ・ラグビー
- ・サッカー
- ・野球
- ・男子バレーボール
- ・女子バレーボール
- ・バドミントン
- ・テニス
- ・ソフトテニス
- ・剣道
- ・少林寺拳法
- ・水泳
- ・合気道
- ・軟式野球

文化部門

- ・英語
- ・モダンミュージック
- ・吹奏楽
- ・囲碁・将棋
- ・ロボット
- ・アマチュア無線研究会
- ・空間デザイン

同好会

- ・天文
- ・茶道
- ・日本現代視覚文化
- ・サイエンスクラブ
- ・フットサル
- ・Structural Design研究会
- ・スポーツライミング
- ・グラフ電卓研究会
- ・珈琲
- ・小型模擬人工衛星
- ・プログラミング研究会
- ・書道
- ・セパタクロー

令和3年度 学校行事写真



全国高専デザコン1



全国高専デザコン2



ハンドボール全国高専体育大会



水泳全国高専体育大会



バドミントン全国高専体育大会



特別講演会(性犯罪)



サッカー全国高専体育大会



第2回学生表彰式



パーソナルファイナンス講演



服育講演会



キャンパスプロジェクト報告会1



キャンパスプロジェクト報告会2

編集後記

本科5年生、専攻科2年生の皆様、卒業および修了おめでとうございます。本号では、様々な活動で優秀な成績を収めた学生や、キャンパスプロジェクトなどに挑戦した学生の言葉が紹介されています。高専は望めば色々なことができる環境です。今号を読むことで刺激を受けて、新たな挑戦に臨む人が増えることを期待しております。(西城)

青武台だより

独立行政法人国立高等専門学校機構 福井工業高等専門学校
発行日:令和4年3月18日

お問い合わせ

福井工業高等専門学校
〒916-8507 福井県鯖江市下町
TEL:0778-62-1111